和歌山県立
日高高等学校
SGH通信
第２２号
２０１９年2月２０日

ベトナム研修 その２

SGH 海外研修　産業

2019 年 1 月 14 日 ～ 19 日

主な研修内容

1/14　出国・ハノイ市内研修
1/15　JICA、VJCC（国際支援）
　　日本大使館（日越外交①）
1/16　チャンフー高校との協働学習
1/17　NICﾒﾀﾙﾌﾟﾛｾｯｼﾝｸﾞ（産業研修）
1/18　日本国総領事館（日越外交②）
　　ミライヒューマン（人材育成）
1/19　帰国

ミライヒューマン

NIC メタルプロセッシング

報告② 学びと刺激

今回、ベトナムでの研修を通して、さまざまなことを学び、たくさんの刺激を受けました。

まず、学んだことの一つに、海外で活躍するグローバルな人間になるために大切なことや必要とされることがあります。研修以前の自分は、英語力や語学力がそうではないかと考えていました。確かに、「言葉が通じると、より仕事が面白くなる」という意見もいただきましたが、それとは逆に、「言葉は一つの道具でしかない、必要となればその時必死に頑張ればいい」という意見もいただきました。海外で活躍されている方々は、全員がそれぞれの意見を持っていました。「早くその土地に慣れること」「文化や考えの違いを受け入れる寛容さを持つこと」「何事にもチャレンジする心を持つこと」「知的好奇心を持つこと」等です。これらすべてを身につけることは簡単ではないと思いますが、グローバルな人間になるために身につける努力をしようと思いました。

また、多く受けた刺激の一つに、自分たちの英語の未熟さに気づき、もっと頑張らなければならないと思わされたことがあります。訪問したチャンフー高校の生徒の姿に、強くそう思わされました。自分は英語にはある程度の自信を持っていました。確かに日常会話については、なんとか話すこと、聞き取ることはできました。しかし、ディスカッションにおいては全く話になりませんでした。彼らは、豊富な教養を持ち、それについての意見を持ち、そしてそれを述べる英語力を持っていました。まさに、自分たちの目指すべき姿がそこにはありました。

最後に、この研修において最も強く受けた刺激がミライヒューマンでのお話でした。そこでは貧しい生活を送るベトナム人の、来日して人生を変えるチャンスをつかもうと必死に頑張る姿がありました。彼らはそうした夢を持って日本に来ています。こうしたベトナム人に恥じないように、恵まれた環境にある我々日本人が、もっともっと頑張らなければいけないと考えさせられました。

２年４組　小畑皓希

チャンフー高校

NIC・工場内の様子